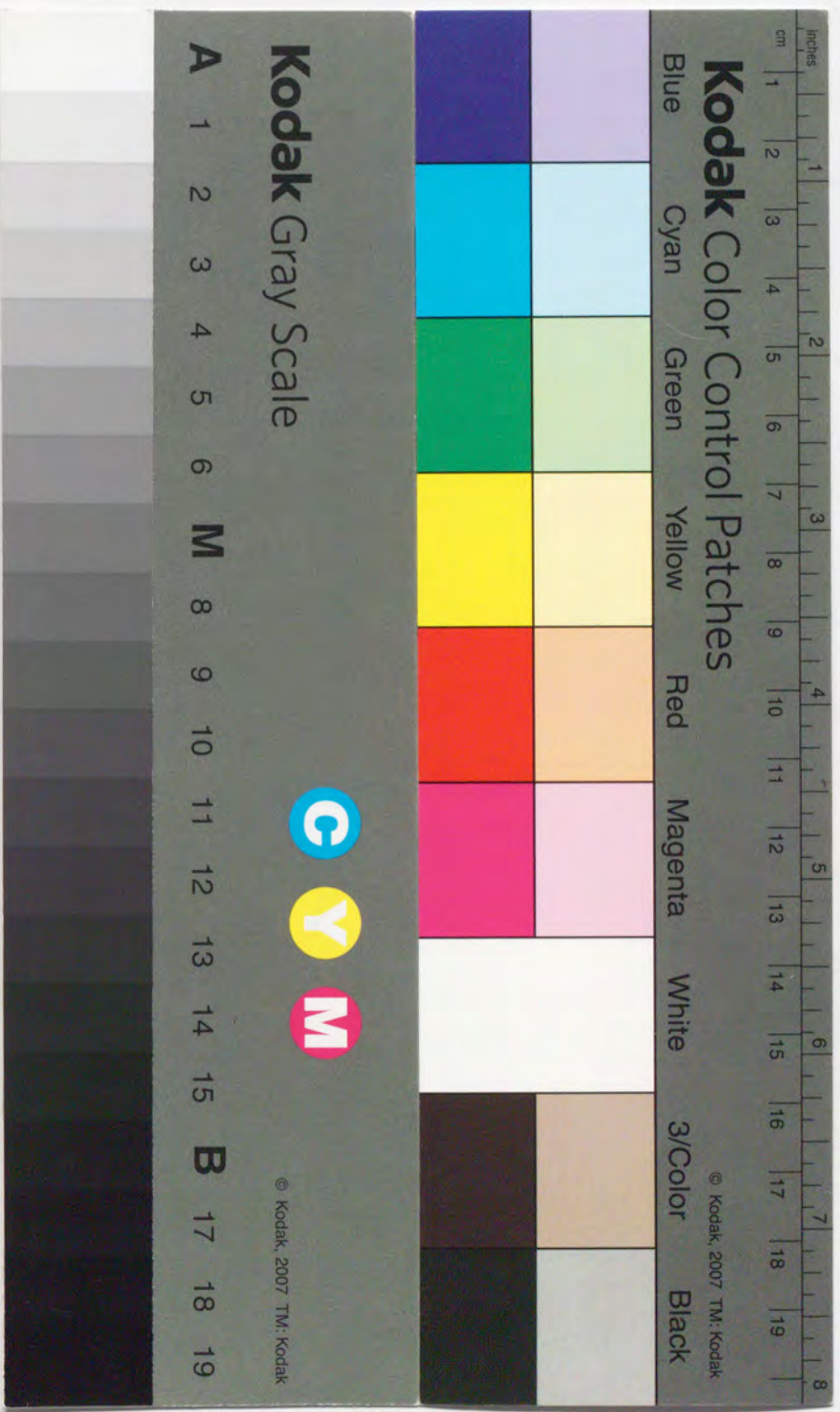




序

書曰作善降之百祥。況や

萬善之長あるをや。ハ幡す女

孝順。つるふ。公ふれ岐へそ。

ちやうし戊午の夏。おくのふねを

下し賜り。そ色可旌表しす。

これ実ふ天より吉祥哉降しぬの

去るふやうな。頃日、あゝの花嫁子。
 其行實乃始末を記し。世に
 公ふ。こととせしむる。此亦勸善
 の一助なり。志篤と云ふ。一
 故に其筆をよめし。一言、
 いえ、冠しむる。

島嶺菴男正揚識

城州八幡孝女傳

坊の、市に
 うふ^{きこ}少くも一孝女すていの城州つるぎやう鑑表那。八幡平
 谷町。津國を長妻女とせうふ長彦より
 家を貧しくして平生さへて定まらるゝところも
 ろく。時小陰ともとのあど賣のとき。いそぐ
 ととつれども。それともよむわん。妻とそと
 こりぐ。夫婦睦みよくし。平常とびいに
 まゐる。さむりの嫁といふ夫婦の事といふべし。
 しんと海を縁われしも。都々々々。惜老の契とうも。

母親の心とてあら。又病牙の母親なる也。日々保
 とあへぬれぬ中を去とみ守りて。母のまゝと
 するけり。わが業人の人たるゆ故に
 ふも。よの人そと成せぬなり。我にほれそむ
 もけ探ひます。一瞥にほらるるも有りけり
 けるさるやめと。志んふ此事う二親の心と成。
 世付も有るし。うたへ何ぞす。稀なることじ。
 ○八枝宮の御統後、治食決九不交心婦人也。陰
 府洞燭不交心婦人處と。のふふ。怒るづけ

大意とくぢりする。邪念、正念の二つあり。一
 たるてん。他人と賺商場と云ふ。難惑會々たふい。二
 休ぶ情欲して媚は。それふあづるぬめと道うくして
 食うりあ集。おれ目おれ栄たするあうで。これと恥づ
 い邪念い。それ我方に付てあうて。休ぶ飢てほ
 ろああり。徒丸と云ふ。衣等の邪念。ううなづき。一
 〇人の重荷。天柱の徳。それの位とけてまれぬ。長
 ころろ。定り道は。それとて。それふあ付な
 ぞ御られ。新て。此會歌。あけりて。おれとすれ

○又廻響の焼くくたれ^{くたれ}吾^わしひも^も貪欲^{こんよく}の^の人^{ひと}といふ^{いふ}必^{かならず}月^{つき}を^をう^うべ^べた^たて^てて^て夏^{なつ}の^の炎^{えん}天^{てん}の^の口^{くち}

として病中の起郡新ふる役をせよ。よかりた
 ぶんこふり
 自ら附母の文ふまうけさば母のせとて
 二親と養育せり。月日が過ぎふ世付
 ころる。近所の人もいひあてい嘆きぬあふりた
 ○津ちやそま来れ焼は病中少く。おんな貧
 うと。それもあつて近所の住持は。多
 と救へて。あつてあつてと。老女して厚く一
 の。これぐらでもう。多うと。これど。あつて保
 と賣或いは休庵の味ふも。多うと。保面う。

賣入。それれれれれ。お夕の煙とあげられ。けでふり電
 けり。の。も。い。だ。され。母の病。力。う。て。ふ。ま。う。だ
 ころ。も。も。に。成。も。お。お。れ。な。れ。う。と。い。つ。日。と。い
 ま。う。ろ。ろ。く。き。せ。し。お。ど。ゆ。あ。む。し。ま。れ。と。な。れ。と。の
 えん。よ。さ。さ。と。の。子。居。ふ。う。ろ。ろ。に。も。は。二。款。も。い。れ。た。と。も。で
 り。と。安。ん。を。お。お。い。つ。は。あ。づ。へ。山。所。の。人。と。い。も。休。の
 ー。い。と。も。は。さ。る。也。と。所。の。氣。中。も。服。が。困。窮。と。さ。う。つ。ふ。て
 け。さ。ら。に。老。女。の。志。操。感。ぢ。な。い。ろ。う。と。

○家内くわいに多おほく病やま人ひたひありて男おとこの母ははやどを道みちに



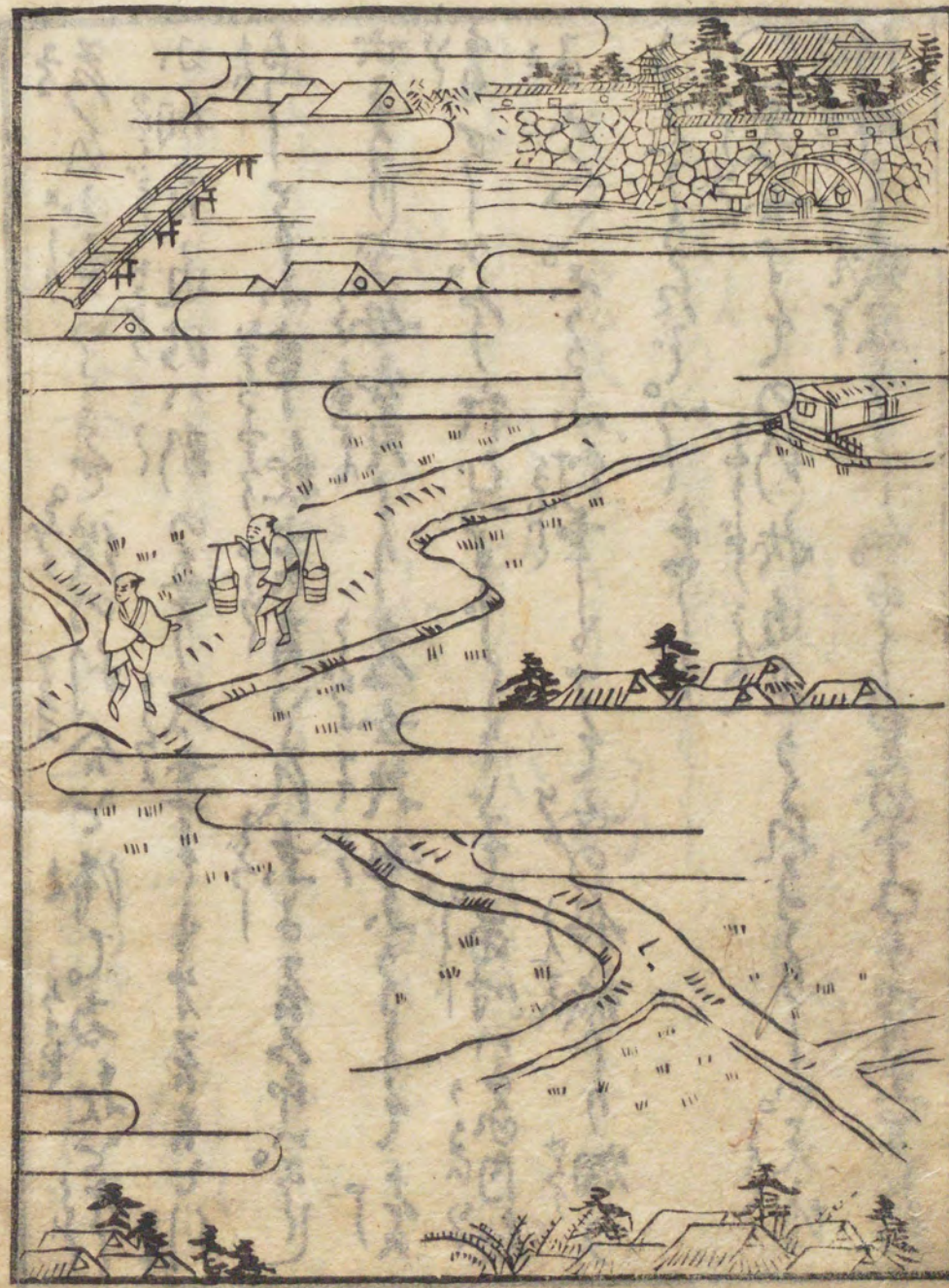
くばりう。噺／＼孝女うづめまでぬくの。内緒うちづかで。近うとて
孝女うづめ様さまうめとばさふといふて半はんうて

[illegible]

正作孝女伝を讀む。一見
あやうらとせし事親ありの志はうぬめ地志う。
貞女の志操を引ふ所あるべからざるも事親
志厚く中にこもりて身も心も清くに思ふ。
このよみおのれ無きふりてゆくとふそなりか
に化るるんは是ぞ海は噴と噴してあふ易う
さういひ。孝女すていは事のいとまうのいへ
たそれな。孝女一途なるをこれより傳へる事にて
こふやう○然る勉めびて心魂を徹し。あふいて



恒々如斯



○マコト 少ふ月十九日若女ウヅメすてマコト 五玉イハヒを
所マコトへマコト 役人マコト付マコトふ。京マコト都マコト一マコト所マコトのマコトかり
刻マコト

御上よりうへよりも苦心くしんお物ものめめるるお多おききのの御威ごゐははい
まませせれれ御慶ごけい美みととして

御奉新様より。青洲ニ貴人あり。なる家々
長々^{とく}の御褒美^{ごうび}見^みふ^ふありたる社会^{しゃかい}。それ

八幡御常御標より。御敷より。これ青烟之費又
御長員より。これ下。彼は冥加の報あり。と

わたり

く。枕ふかき清れふのあり

評曰とてなれ人々もじりも稀なるものと

やゆてい。後世紙のたひふもゆゆと稀なるもの

もふきづいてい。人々も信じてい。又

又朝りて清くあり。もと信じてい。の訓

もふきづいてい。朝きもい。朝きも朝き

もふきづいてい。朝きもい。朝きも朝き

けふふい。朝きもい。朝きも朝き

必勝とてい。朝きもい。朝きも朝き

く。朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

朝きもい。朝きも朝き

八幡若女坊

所謂天の命之と性くは小幸之と云ふ。道と修之と教と習のなひへ。した師と云ふ。ふれとそび。心と改め。あふ香い。是淑う。天令。つふふまひ。うれは。自真の孝め。か。れ。ど。て。り。く。く。く。した。師。な。と。も。り。て。人。道。と。云。ふ。より。か。た。り。き。平。安。隱。士。華。信。清。徳。

限

寛政

寛政十年戊午七月御免發行

御

皇都書林

御幸町三糸上町

梅村伊兵衛

数屋町御池下町

近江屋莊兵衛

御幸町御池下町

菱屋孫兵衛

